

年次活動実績報告

研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

「未来フィールド」とは、小田急グループが新たな経営ビジョンとして打ち出した、木をイメージした造語である。「わくわく×イノベーション」という幹を持ち、その先に、くらし、モビリティ、観光、まちづくりの4つの「葉」を持つ概念で、SFCとの共同研究によって「葉」及び「枝」は、大学の自由な発想や知をもとに発展拡大させ、実用化していくことを目的としている。また本ラボラトリの活動は「次世代キャンパス・ビレッジ研究コンソーシアム」と連携し、必要に応じて研究で生み出した萌芽的モデルを地域で実証し、地域活性化やまちづくりに貢献する。

本ラボラトリではSFCの様々な知や経験を未来フィールドの創造に活用していくため、学内へ研究課題を公募し、採択課題を決定し、それぞれの課題に関連する事業を行っている小田急グループ内の企業と連携して採択課題の研究活動を推進した。過去に以下のような実績がある

1. スマート箱根:LIVEセンサスによる街の超解像度マネジメント (中澤仁)
2. デジタルデータ基盤を活用した「自在社会」への挑戦 (佐藤雅明)
3. 未来フィールドカレッジ (飯盛義徳、梅嶋真樹)
4. 食を通じた拠点づくりによる地域社会のヘルスアップ (小松浩子)
5. 自動運転車椅子を支援する超高解像度3Dマップ基盤 (田中浩也)
6. 人工知能前提時代の豊かな衣生活を実現するマスカスタマイゼーションサービスの実装 (川崎和也)
7. 個人の状態に基づくマーケティングシステムの構築 (川本章太)
8. 人生100年時代・総認知機能低下時代のためのDementia Friendly Transportation ビジョンづくり(佐藤 理恵)
9. 認知機能の低下に伴う外出の不安をサポートする“DF Outing Navi”(青木 佑)
10. 新交通システム、自走型ロープウェイの1/5モデル開発(須知 高匡)
11. 小田急沿線都市データの可聴化による音風景の創作(藤井 進也)
12. IoT技術とWeb環境の融合による鉄道サービスの向上(増井 俊之)
13. シェア型LFOM マイクロモビリティの実証的検証(高汐 一紀)
14. スマート箱根：LIVEセンサスの高解像度化(中澤 仁)
15. "データ活用による効率的・公平・健康的なモビリティ Student Life (SFC-SFS) and Social Media Data for Efficient, Equitable and Healthy Mobility"(日比 友紀子)
16. SenTan: an IoT system to improve user experience and support the operation of hot-spring public bath(姜 欣怡)
17. 子育て世代向けのワークショップ(仲谷 正史)

※尚、新型コロナによる学外連携研究の制約、研究先(小田急グループ)の新型コロナに伴う事業環境変化、ラボ研究事務局が新型コロナ対策の公務発生を原因とし、本年度のラボ事業は休止している。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

本年度のラボとしての研究活動は休止し、研究者各自での研究を推進している。